



本光山 三寶寺

寺の後方にそびえる高見山・高見城

三寶寺は室町時代の文明4年(1472)に太宗和尚の開基と云われ、明智光秀の丹波攻めで高見城落城と共に焼失し、31年後の慶長11年(1606)に再建されました。寺の後方にそびえる高見山にはかつて足利尊氏の側近 仁木頼章が築いた高見城(佐野城)がありました。戦国時代は赤井家清(直正の兄)が城主となり、柏原、氷上地域を治めています。天正7年(1579)、明智軍は柏原全村を焼き、八幡山に陣を構えました。高見城は黒井城に加勢して手薄のところを四王天政孝軍に攻め落とされました。仁木頼章の墓所は、三寶寺の境内にあります。

丹波攻めで高見城を落とした明智光秀は城下に「遷住」の高札を掲げ、民衆に早く日常の生活に戻るよう命じた文書が残されています。(富永家文書)

- ◆住 所/丹波市柏原町大新屋571
- ◆電 話/0795-72-0954
- ◆入山料/志納金
- ◆駐車場/有(バス5台・乗用車50台)



▲三寶寺山門
▲三寶寺から望む高見城跡

五大山 白毫寺

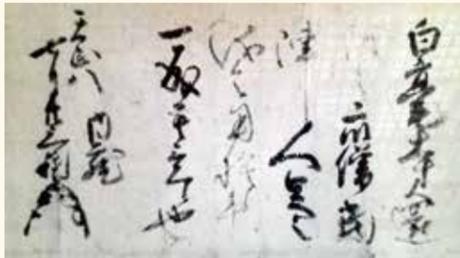
黒井城の北の城下にあたる白毫寺

白毫寺は慶雲2年(705)、法道仙人によって開基され、南北朝時代に入って赤松貞範など地元領主の庇護のもと、隆盛を極めました。天正年間の明智光秀の丹波攻めで白毫寺の僧兵は赤井方に味方し、また裏山は黒井城の水源であったことや、銀や銅の鉱山などを有する特別な場所であったため堂塔は全て焼き討ちに遭いました。向かいの山には「白毫寺東城」と呼ばれる館を置き白毫寺を守ったことから、黒井城の要所であったことが偲べれます。

「斎藤利三の下知状」(非公開)

黒井城が落城した翌年の天正8年、戦乱で各地に逃れた白毫寺の僧や門前の村人に対し、陣屋へ人足としての出役を免除する書状です。先の城主が白毫寺を優遇していたのと同様に、斎藤利三も戦後は白毫寺を大切にしようとしていたことをうかがわせます。

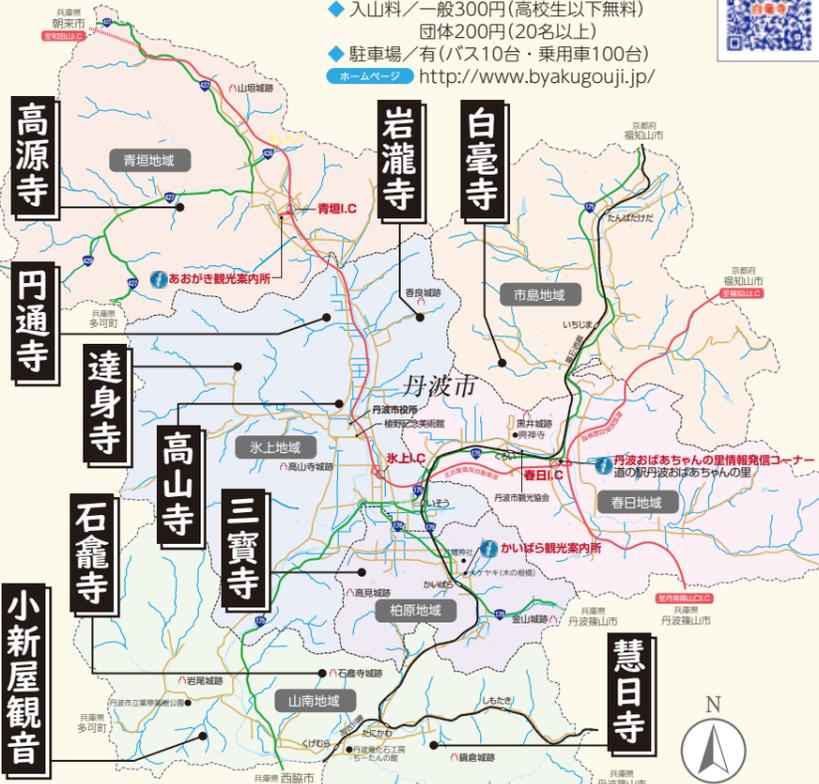
- ◆住 所/丹波市市島町白毫寺709
- ◆電 話/0795-85-0259
- ◆入山料/一般300円(高校生以下無料) 団体200円(20名以上)
- ◆駐車場/有(バス10台・乗用車100台)



▲斎藤利三書状



▲白毫寺山門



発行:丹波もみじめぐり実行委員会
丹波市観光協会 兵庫県丹波市春日町黒井1597 TEL:0795-88-5810 FAX:0795-88-5820
https://www.tambacity-kankou.jp (R2.7/13~)

●この事業は丹波県民局の「明智光秀ゆかりの地魅力情報発信事業補助金」を活用しています。



明智光秀ゆかりの寺

丹波もみじめぐり

十ヶ寺

木漏れ日に揺れる青もみじ

自然と歴史が織りなす古刹を訪ねて



©中川英明



©中川英明

NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の放映から明智光秀が脚光を浴びています。丹波市にも明智光秀の丹波攻めなど光秀と深いかわりがあることはよく知られていますが、秋の紅葉シーズンに紹介している丹波もみじめぐり10ヶ寺も明智光秀や光秀に果敢に立ち向かった丹波の武将達とゆかりの寺であることを紹介します。秋の紅葉シーズンだけでなく、木漏れ日に揺れる青もみじを楽しみながら10ヶ寺のお寺を巡り、古のロマンを感じてみてはいかがでしょうか。

西天目瑞巖山 高源寺

遠谿祖雄禅師は山垣城城主足立遠政公の曾孫

高源寺は、正中2年(1325)に遠谿祖雄禅師によって開創されました。禅師は青垣町山垣の萬歳山にあった山垣城の城主足立遠政の孫孫基の三男で、嘉元4年(1306)に中国に渡り、杭州天目山の中峰国師のもとで約10年修行をして悟りを開きます。そして、帰国後、佐治郷小倉の岩屋が天目山に似ていることから、ここに堂宇を創建しました。嘉暦元年(1326)には後醍醐天皇より「高源禅寺」号を賜り、勅願所の礼遇を許され、全国に末寺を持つ大本山となりました。

しかし、天正年間、織田信長の丹波攻略で建物をことごとく焼失しました。その後、寛政11年(1799)には、弘巖玄猊禅師が柏原藩の援助を得て現在地に再建し、現在に至っています。

- ◆住 所/丹波市青垣町松倉514
- ◆電 話/0795-87-5081
- ◆入山料/志納金【紅葉期間中:大人300円・小人(中学生以下)100円】
- ◆駐車場/有(バス50台・乗用車100台)



▲高源寺山門

永谷山 円通寺

明智光秀の焼き討ちを免れた円通寺

明智光秀は一度目の丹波攻めに失敗し、二度目は周到に準備を進め、まず氷上郡(丹波市)内の寺社の焼討ちにかかりました。

明智軍が横田に本陣をすすめた時、郷士荻野喜右衛門が、単身、明智光秀に面会を申し込み、御油庄の円通寺を残すよう説得しました。

光秀はこれを聞き届け、乱暴狼藉を禁じた三箇条の「禁制」と寺域への馬の乗り入れを禁じた「下馬札」を自ら書上げて部下に走らせ、先陣の兵たちに示達しました。喜右衛門の働きにより円通寺は難を逃れることができたのです。

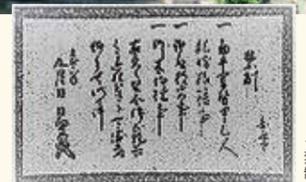
「禁制」と「下馬札」は今も円通寺に大切に保管されています。

11月の「もみじ祭り」の公開期間中のみ本堂で閲覧することが出来ます。

- ◆住 所/丹波市氷上町御油983
- ◆電 話/0795-82-9188(円通寺もみじの里振興会) ナビ0795-82-1992
- ◆入山料/志納金【紅葉期間中:大人300円/小人(中学生以下)無料/団体割引有200円(15名以上)】
- ◆駐車場/有(バス20台 乗用車100台)



▲下馬札



▲禁制

フ子知識!

斎藤利三とお福(春日局)

天正7年(1579)8月、黒井城が落城、9月には高見城ほか氷上郡の平定が完了して、丹波の戦国史はここに終わりを告げました。

その戦後処理のために黒井城に入ったのが、明智光秀の片腕ともいわれた重臣、斎藤利三です。利三は、黒井城の下館(現興禅寺)を陣屋として西丹波一円の治安に当たるとともに領民を慈しみ善政をしきました。

そのころ、利三は坂本城にいた妻のお安と子供たちをこの陣屋に呼び寄せました。そして、天正7年(1579)の年の瀬も押し迫った頃、産声をあげたのが後の春日局(幼名お福)です。利三は、明智光秀の居城となった亀山城(現京都府亀岡市)と往來を重ねながら、天正9年(1581)終わりまで足かけ三年、この地に住みました。

インフォメーション

かいばら観光案内所
兵庫県丹波市柏原町柏原3625
☎0795-73-0303 (定休:年末年始)

あおがき観光案内所
兵庫県丹波市青垣町西芦田541-1
☎0795-87-2222 (定休:火曜日・年末年始)

道の駅丹波おばあちゃんの里 情報発信コーナー
兵庫県丹波市春日町七日市710
☎080-2548-0432 (定休:年末年始)



岩屋山 石籠寺

岩屋山の自然の要塞に守られた石籠寺城

石籠寺は、西暦587年聖徳太子の創建と伝えられており、この寺は足利尊氏の帰依を受け、その嫡子・義詮が一時逗留したところで足利家とは特別な関係にありました。

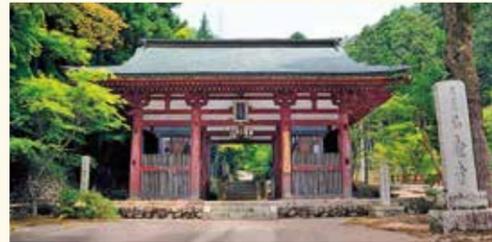
石籠寺城は山頂や尾根に各出丸があった程度で麓の寺域が城の役割を果たしていたと思われるのですが、城跡らしき痕跡は見られません。山からは旧小川、久下、和田、柏原、沼貫、成松各地区を見下ろせます。

天正7年(1579)、織田信長は明智光秀、明智秀満、羽柴秀長、丹羽長秀に命じて、四方から氷上郡を攻撃させました。播磨から北上した丹羽軍は玉巻城を攻め落したあと石籠寺城を攻撃し、自然の要害に守られた石籠寺城も遂に落城しました。この戦いで、一山ごとく焼失し、仁王門を残すのみとなりました。仁王門にある仁王像は鎌倉時代の仏師、肥後定慶の作と云われています。

- ◆ 住所/丹波市山南町岩屋2
- ◆ 電話/0795-77-0235
- ◆ 入山料/志納金【紅葉期間中：大人300円・中高生100円・小学生以下無料・団体割引有(20名以上)】
- ◆ 駐車場/有(バス6台・乗用車70台)



▲石籠寺仁王像



▲石籠寺山門



▲小新屋観音

- ◆ 住所/丹波市山南町小新屋石金47-1
- ◆ 電話/無し
- ◆ 入山料/志納金
- ◆ 駐車場/有(中型バス3台・乗用車30台)



石金山 小新屋観音

岩尾城主和田齊頼が霊夢に導かれて建立

石金山登山口にある小新屋観音は、永正7年(1510)、岩尾城主和田齊頼が、千手観音の霊夢に導かれて本堂を建立し、祈願所として厚く崇拝したと云われています。寛永7年(1630)消失したのを円満寺の明覚院が再興し、以来、石金山常照寺と称しました。足の病にご利益があると云われています。境内には観音様が乗って和田齊頼の霊夢に現れたという石船が安置してあります。

岩尾城は、蛇山の山頂にあり和田齊頼が永正13年(1516)に築城したと云われています。その後、明智光秀での丹波攻めによって天正7年(1579)に落城しました。岩尾城は中世と近世の山城が混在したまま残る大変貴重な城跡で県指定文化財(史跡)となっています。



▲岩尾城二の丸

萬松山 慧日寺

足利家ゆかりの寺 建造物は国登録有形文化財

慧日寺は、永和元年(1375)足利幕府の管領細川頼之と、弟で養子の頼元により建立されました。頼之の権威とともに、ここ萬松山慧日寺は塔頭寺院十八ヶ寺、末寺四十六ヶ寺を数え、草深いこの地は一大法域として教化の中心となりました。しかし開山の特峯妙奇禪師滅後、世は戦乱となり堂宇は明智光秀の丹波攻めで天正3年(1575)に焼失しています。現存の仏殿は元禄年間(17世紀末)、方丈・鐘楼等は18世紀末に再建されたものです。

また、鍋倉城(太田城)跡が太田地区の南、東山の山頂にあります。鍋倉城は、形瀬近江守の居城(太田美濃守の居城説もあり)でしたが、天正6年(1578)明智光秀の丹波攻めで落城しています。



▲慧日寺

- ◆ 住所/丹波市山南町太田127-1
- ◆ 電話/0795-77-0354
- ◆ 入山料/志納金【紅葉期間中：護寺協力金 大人300円】
- ◆ 駐車場/有(バス5台・乗用車50台)



浅山不動尊 岩瀧寺

丹波戦国史上最も峻烈な戦い香良合戦

岩瀧寺は、弘仁年間(809~823)嵯峨天皇が住吉明神の霊夢により弘法大師に命じて開基させたと云われ、天正年間明智光秀の丹波攻めで全山焼失しました。

岩瀧寺の境内から前方に険しい岩山が見えます。その山頂に築かれたのが香良城です。丹波地方においては当時有名な「香良合戦」の舞台にもなった山城です。香良合戦は、赤井一族に危機感を持った足立、芦田氏連合軍が丹波守護代の八木城内藤氏、京都で実権を握る三好長慶、松永久秀(弾正)の応援を得て戦いました。丸一日の激戦の結果、赤井軍団が辛勝しました。

この戦いで 赤井家長男であり高見城主の赤井家清が戦死しました。また、次男で黒井城主の赤井(荻野)直正もこの時の傷が元で後年に世界したと云われています。

香良の村人がこの時の戦死者を弔った野仏や数々の伝承が、今も地区内に残っています。

- ◆ 住所/丹波市氷上町香良613-4
- ◆ 電話/0795-82-7675
- ◆ 入山料/志納金【紅葉期間のみ200円】
- ◆ 駐車場/有(バス10台・乗用車60台)【普通車200円 バス1,000円(紅葉期間中無料)】
- ◆ ホームページ <http://www.ganryuzi.jp/>



▲岩瀧寺山門



▲達身寺仏像

十九山 達身寺

仏師の里 謎多き寺 達身寺

達身寺の前身は諸説ありますが、開山は行基菩薩によるもので僧兵を抱え山岳仏教の教権を張るような大寺院であったと云われています。

しかし、言い伝えでは織田信長の命を受けた明智光秀の丹波攻めに遭い、寺が焼かれる前に、多くの仏像は僧侶たちの手によって谷に運び出され、そのまま置き去りにされていました。時は流れ、元禄8年(1695)、村に疫病が流行り多くの人が亡くなる出来事がありました。占い師によると「仏像を粗末にしている仏罰である」とのお告げをうけ、谷に放置されていた仏像を集め、山の中にあつた破損した達身堂もふもとに降ろして修復し、仏像を安置し祀ったと云われています。

- ◆ 住所/丹波市氷上町清住259
- ◆ 電話/0795-82-0762
- ◆ 入山料/大人400円(高校生以上)・小人(中学生以下)無料・団体割引有300円(20名以上) 障害者手帳持参の方無料
- ◆ 駐車場/有(バス10台・乗用車20台)
- ◆ ホームページ <http://www.tashinji.jp/>



弘浪山 高山寺

弘浪山上にあり、城塞化され高山寺城となる

高山寺は奈良時代の天平宝字5年(761)に法道仙人の開基と云われ、氷上町柿柴の弘浪山の中腹にありました。高山寺は、鎌倉初期に相模国から来住した荻野氏によって城塞化されました。

太平記にもしばしば登場する丹波を代表する勇将・荻野朝忠は、足利尊氏の亀岡での旗揚げに久下、芦田、余田氏は300騎を率いて馳せ参じますが、荻野朝忠は「今さら人の下風に立つべきに非ず」と足立、本庄氏とともに若狭を迂回して上洛、六波羅を攻めました。朝忠はその後、天田郡に移り、高山寺城は仁木氏、本庄氏、久下氏等の居城となった後、多紀郡八上城の波多野氏重臣・大館氏忠の時、明智軍の丹波攻めで落城しました。

高山寺城跡に登る葛野地区の柿柴は、昔は本道で門前町として栄えていました。山頂の寺跡には本堂跡や立派な石垣、墓碑、大イチョウなどが残されています。現在の高山寺は昭和33年(1958)に本堂、山門等が山上から移築されました。



- ◆ 住所/丹波市氷上町常楽50-1
- ◆ 電話/0795-82-1261
- ◆ 入山料(保全身)/300円
- ◆ 駐車場/有(バス5台・乗用車30台)
- ◆ ホームページ <https://www.facebook.com/tanba.kosanji/>

